

たきだにがわ 滝谷川遺跡

ゆうか
久米郡美咲町飯岡

吉井川と吉野川の合流点を臨む 弥生時代後期の集落

一般国道 374 号（美作岡山道路）の改築工事に伴い、令和 7 年度から滝谷川遺跡の発掘調査を行っています。本遺跡は月の輪古墳のある山の南麓、吉井川と吉野川の合流点を臨む南向きの斜面地に位置しています。令和 8 年度の調査では新たに 2 軒の竪穴住居と多くの土坑が見つかり、昨年度の成果と合わせて弥生時代に営まれた集落の様子がより詳細に分かってきました。

今回新たに見つかった竪穴住居は弥生時代後期（約 1,900 ～ 1,800 年前）のもので、1 軒は直径が 9 m を超える県内でも大型の住居です。炭化した建築部材を検出しており、焼失住居と考えられます。焼失の原因は失火によるものと考えられ、住居内からは多量の土器が使用時を保ったような状態で見つかっています。住居内では壺、甕、高杯、台付鉢などの種類豊富な土器に加



大型竪穴住居内に並べられた土器（北から）

え、石包丁や砥石などの石器や鉄器といった多様な遺物が見つかり、当時の人々の道具や暮らしぶりを知ることができます。

竪穴住居群の西側からは直径1～2mの土坑が15基見つかり、他の遺跡での調査事例から、食物等を保管した貯蔵穴群の可能性が考えられます。多量の土器が出土した土坑もあり、貯蔵穴が使われなくなった後に土器をまとめて廃棄したものと想定しています。これらの貯蔵穴は、出土土器の年代から竪穴住居に住んだ人々が使用していたものと考えています。

このように、調査で見つかった竪穴住居や土坑から、飯岡地区での弥生時代の人々の暮らしぶりや集落のあり方が徐々に明らかになってきました。中でも大型竪穴住居では、住居内に並べられた状態の土器を多数確認することができ、竪穴住居内の空間利用や生活の様子を解明するための貴重な成果を得ることができました。

(稲垣和寿)



大型竪穴住居の検出状況（北から）



多量の土器が廃棄された土坑（南東から）

たか おうえ の はた
高尾上ノ畑遺跡

津山市高尾

丘陵に建ち並ぶ 奈良時代の建物群

一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴い、4月から高尾上ノ畑遺跡の発掘調査を行っています。遺跡は、津山市域の南端に所在し、吉井川の支流の皿川を臨む丘陵上に位置しています。

これまでの調査で、6棟以上の奈良時代（8世紀頃）の掘立柱建物が、丘陵斜面に沿って軒を連ねるようにして見つかりました。

これらはいずれも外壁に沿って柱を立てる側柱建物です。一辺約70～80cmの方形や円形の柱穴からなり、斜面上方を削って平坦面を作っているものもあります。建物からは、須恵器や土師器などの土器類に加え、鉄斧などの鉄器も出土しています。

その規模から、公的機関に伴う建物群である可能性も考えられ、性格や用途も含め、興味深い事例です。

(渡邊 響)



見つかった掘立柱建物（東から）

史跡

びっちゅうこくぶん に じ あと
備中国分尼寺跡

かんばやし
総社市上林ほか

国分寺につづく道を発見

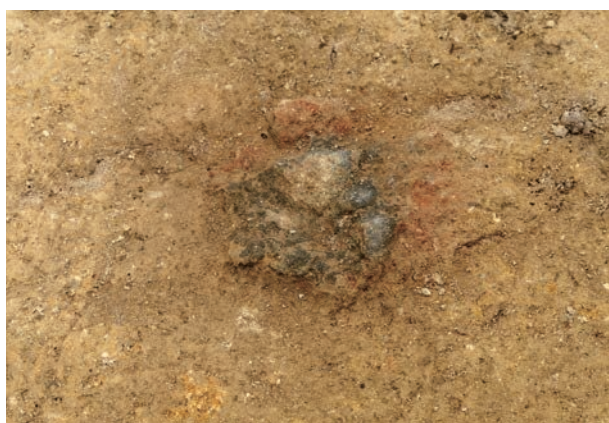
備中国分尼寺は、天平13（741）年に聖武天皇の命により、全国に建立された国分僧寺・尼寺のひとつです。当センターでは、「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業として、備中国分尼寺跡の発掘調査を令和5年度から行い、南門、中門、金堂、講堂、塔（平安時代中期建立）などの主要建物の規模や構造が明らかとなりました。

5月から始まった令和8年度調査では、金堂前広場西端・西門推定地・西辺築地と、備中国分寺跡の東辺築地を発掘しました。西門推定地は調査前から築地が途切れている様子が確認できましたが、調査の結果、築地の間を通る道（幅約1m）と、その両側で排水のための側溝を検出しました。この道は備中国分尼寺から西側にのびており、尼寺と僧寺を行き来する際に通路として使用した可能性があります。

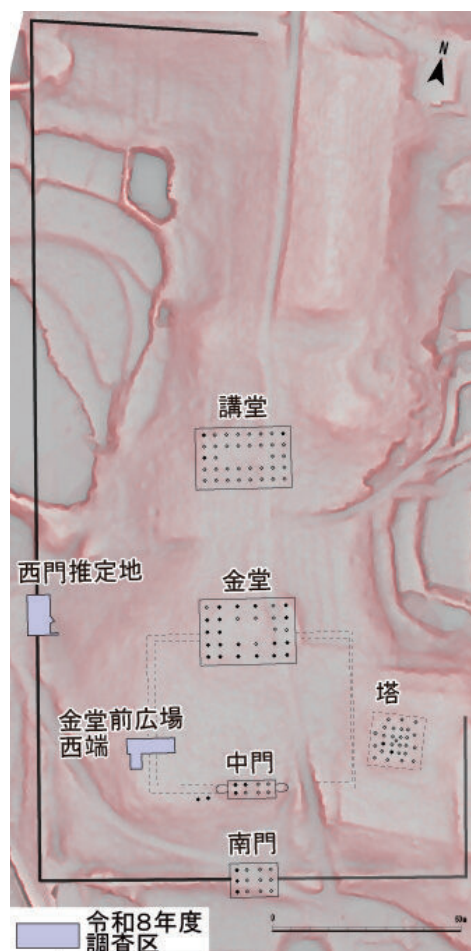
金堂前広場（儀式をおこなう広場）西端では、幢幡（寺院内を飾りつけるための幡）と考えられる遺構や、火を用いた作業場を検出しています。作業場からは炉や滓（鍛冶・鋳銅関連作業で出る廃棄物）とともに平安時代の土器類が出土しました。このことから、平安時代中期に塔を建立する際に必要な金属製品を製作した工房の存在が窺えます。（塩見清佳）



道の検出状況（東から）



金堂前広場西端の炉（南から）



伽藍配置と令和8年度調査区



令和8年度 企画展 1 「吉備の農耕と実り」

令和8年4月15日（水）から10月12日（月・祝）まで当センター展示室で令和8年度企画展Ⅰ「吉備の農耕と実り」を開催しています。

現代に生きる私たちは、主食の米をはじめ、田や畑で育てた作物を食べて生活をしています。こうした農耕は、稲作が伝わってきた弥生時代以来、生活の重要な基盤として脈々と現代にまで営まれてきました。「生活の営み」というと集落が注目され、食糧生産にスポットが当たることは多くありません。そこで今回の企画展では、特に稲作にかかわる遺構や遺物を、田起こしから収穫まで、1年間の作業工程に沿って紹介しています。

企画展ではまず発掘調査からみえてきた弥生・古墳時代の水田について紹介しています。弥生・古墳時代の水田は現代と同様に畦^{あぜ}で区切られた田に水を引き込んでいました。ところが、現代の水田と大きく異なる部分があります。どこが違うのか、発掘された遺跡の水田の写真と照らし合わせながら確かめてみてください。

展示品には水田を耕すための道具や、水田の中で作業するための田^た下^げ駄^たや田^た舟^{ぶね}などがあります。注目の展示品は又^{また}鋤^{ぐわ}（岡山市津島遺跡出土）です。又^{また}鋤^{ぐわ}は、瀬戸内地域が発祥の農耕具であり、その特徴的な形から「ナスビ形農耕具」とも呼ばれています。そのほか、平^{ひら}鋤^{すき}、代^{しろ}掻^かき、広^{ひろ}鋤^{ぐわ}など様々な農耕具を組み合わせ水田を営んでいたことが分かります。イネを収穫する道具として石包丁や鉄製の摘^{つみ}鎌^{がま}、イネからモミ殻を取り除くために使われた白^{うす}なども展示しています。

実際に遺跡を調査すると、当時住んでいた人々が育て食べていたコメが見つかることがあります。コメ以外にも、アズキやダイズが見つかることもあり、当時の人々が畠^{はたけ}でこれら豆類を栽培していたことが推定できます。

今回の企画展は、弥生時代から古墳時代の農耕に関わる遺物が一堂に会した展示となっています。特に木製品は見ごたえがありますので、この機会にぜひ御覧ください。

（杉浦香菜子）



企画展の様子



瀬戸内地域発祥の又鋤（岡山市津島遺跡出土）



遺跡から見つかったコメや豆類



大地からの便り 2026 – 県内の発掘調査報告会 –

令和8年7月11日（土）に岡山県立博物館において、近年に行われた発掘調査成果を紹介する報告会を開催しました。今年は104名の方が参加されました。

1本目は、赤磐市教育委員会の高田恭一郎さんによる曾根田遺跡の調査報告です。曾根田遺跡は弥生時代中期後葉から古墳時代後期にかけて平地に営まれた集落です。近くに所在する同時期の用木山遺跡などは丘陵上に在るため、その立地の違いが注目されます。

2本目は当センターの渡邊響さんによる津山市福田湯田遺跡の調査報告です。頻繁に流れを変えたと考えられる皿川と、その川岸や中州から発見された土器や鉄器の出土状況から、調査例の少ない古墳時代後期の水辺の祭祀の内容に迫りました。

3本目は倉敷埋蔵文化財センターの藤原好二さんによる内出1号墳の調査報告です。倉敷市は天狗山古墳など県・市指定の古墳が所在する下二万地区の古墳群を一体的に整備・活用していくために、周辺の古墳についても調査を行い、その第1弾が内出1号墳です。

4本目は当センターの竹田千紘さんによる史跡備中国分尼寺跡の調査報告です。令和7年度に発見された塔跡では、心礎、四天柱、側柱の痕跡が確認され、裳階と呼ばれる雨よけの庇を持つ構造であることが分かり、塔の建立時期は平安時代中期（10世紀）です。

皆さんは、熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

（物部茂樹）



赤磐市 曾根田遺跡の報告（高田さん）



津山市 福田湯田遺跡の報告（渡邊さん）



倉敷市 内出1号墳の報告（藤原さん）



総社市 史跡備中国分尼寺跡の報告（竹田さん）



チャレンジ！考古学教室（古代吉備文化財センターコース）

令和7年度から開催している中学生・高校生対象の体験型イベントです。令和8年度の参加者は中学生4名、高校生5名の9名でした。

初回の6月20日（土）午前に遺物洗浄・復元・整理・実測など当センターの通常業務を見学して、実際に土器洗浄を体験してもらいました。午後からは弥生時代の甕をイメージした土器づくりにチャレンジしました。素材の粘土づくりから始まる土器製作の過程を追体験しながら、土器の機能や制作者の工夫に迫っていきます。

2回目の7月25日（土）は、初回に作った土器を弥生時代のように野焼きしました。これは一日がかりの工程になるので、土器が焼き上がるまでの時間を利用して遺物の実測や瓦の拓本も体験してもらいました。参加者からは「どのようにして新しい発見を得ることができるのか分かるようになった」「より考古学に興味を持った」などの感想をいただきました。（難波拓史）



弥生の甕をつくる



土器の実測図を作成する



瓦の拓本をとる



夏休み企画☆ワクワク古代体験！

令和8年7月28日（火）から31日（金）まで、人と科学の未来館サイピアを会場として開催しました。恒例の勾玉・鏡づくりのほか、今回は新たに、当センター職員が復元した古代の機織り機を使った、布づくりの古代体験を行いました。また展示コーナーでは、伊福定国前遺跡（岡山市）の出土品と解説パネルを展示し、人気の土器パズルコーナーも設けました。

古代体験では、職員が勾玉や鏡についての説明を行った後、津島遺跡ボランティアの皆さんからアドバイスを受けながら、それぞれの体験に取り組んでももらいました。「なかなか出来ない体験を親子で出来て良かった」、「歴史も知れて面白かった、ほかの歴史も知りたくなった」、「根気よく磨くと成果が出て楽しかった」などの感想をいただきました。

今後も夏休みの恒例イベントとして、開催していきたいと考えています。（小林有紀子）



勾玉（左）・鏡（右）づくりの様子



布を織ろう！

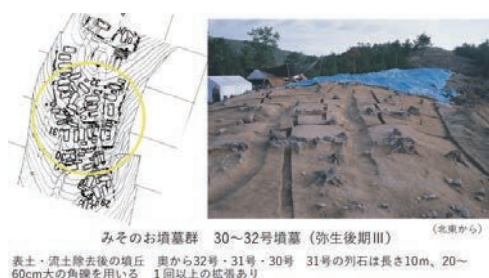


吉備の考古学講座 第1回「吉備の弥生時代」

「吉備の考古学講座」は県立図書館多目的ホールを会場として計2回開催されます。この講座は、岡山県立図書館と連携して開催する「吉備の歴史」について学ぶもので、当センターの職員が埋蔵文化財の調査及び研究などの業務で培った知識や知見をもとに発表します。

その第1回は、令和8年8月29日（土）に『吉備の弥生時代』と題して行いました。氏平昭^{うじひらあき}のり総括副参事が「外から眺める吉備の弥生時代墳墓」、河合忍^{かわいしのぶ}調査第二課長が「高地性集落から弥生時代の社会を読み解く」について解説を行いました。参加した皆さんからは、「新しい情報を知ることができた」、「交流という視点が大変興味深かった」、「弥生時代のイメージが変わった」などの感想を頂きました。

第2回は9月19日（土）に、『吉備の古墳時代』と題して、平野友梨^{ひらの ゆうり}主事とおのうえもと^{きのうえもと}き次長が発表する予定です。（物部茂樹）



みそのお墳墓群 30～32号墳墓（弥生後期Ⅲ）
表土・腐土除去後の墳丘 奥から32号・31号・30号 31号の列石は長さ10m、20～60cm大の角礎を用いる 1回以上の拡張あり

発表資料の一部（氏平）

令和8年度 吉備の考古学講座第1回 吉備の弥生時代 高地性集落から弥生時代の社会を読み解く



とらぎ・小松島遺跡（岡山県教育委員会2003）
比高差：65～14m

岡山県古代吉備文化財センター
調査第二課長 河合 忍

発表資料の一部（河合）



センター公式SNS更新中！



岡山県古代吉備文化財センターでは、公式 Instagram、YouTube、Facebook を通じて、最新の発掘調査や埋蔵文化財の魅力を広く発信しています。

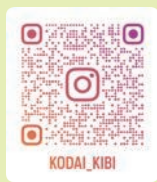
YouTube では、瓦づくりの実験や備中国分尼寺跡で見つかった塔に関する動画を公開しています。Facebook では、イベント情報や最新の調査成果を随時掲載しています。

なかでも現在力を入れているのが Instagram です。発掘現場の様子や、イベントの告知や開催当日の様子を、写真を中心に分かりやすく紹介しています。また、各種機能を活用した情報発信にも取り組み、幅広い世代に古代吉備の歴史や文化の魅力をお届けしています。

今後もさまざまな情報をお知らせしますので、フォローをお願いします。



Instagram【ただいま発掘中！】



公式 Instagram
二次元コード



YouTube【備中国分尼寺跡で平安時代の塔発見！】



公式 YouTube
チャンネル
二次元コード

センター
収蔵品紹介岡山城二の丸跡・
岡山後楽園出土の汽車土瓶

汽車とともに旅した「うつわ」たち

皆さんは「汽車土瓶^{きしゃどびん}」という、手の平サイズのかわいらしい「うつわ」をご存じでしょうか。かつて駅弁とともに販売されていた陶器製のお茶の容器のことで、明治20年代に登場し、時代とともにその姿を変えながら、ポリ容器が普及し始める昭和30年代までは汽車旅のお供として広く親しまれました。こ

この汽車土瓶が、遺跡の発掘調査の際に時おり出土し、調査員の目にとまることがあります。

写真1は、現在岡山県立図書館のある岡山城二の丸跡から出土した益子焼（栃木県）の製品で、汽車土瓶としては初期にあたり、典型的な土瓶の形です。側面に書かれた「ひらぬま」は、神奈川県内の東海道本線上に明治34年（1901）から大正4年（1915）まで設置されていた平沼駅^{ましろ}、「銀月軒^{ぎんげつ}」は同駅で営業していた弁当店の名前で、土瓶の製造・販売年代もこの期間に限定できます。

写真2は、岡山後楽園の船着き場である御舟入跡^{おふないり}に堆積した土砂から出土した汽車土瓶で、写真1と比べると素材や形に変化がみられます。左から、大正末～昭和初期に大阪で製造されたガラス製茶瓶、昭和戦前期の野間焼（福岡県）、昭和戦後期の美濃焼（岐阜県）の製品と考えられ、いずれも側面に「御茶」ないし「お茶」の文字があります。鉄道駅でもないのに、年代も産地も異なる汽車土瓶が出土するのは、全国各地からの観光客が訪れる後楽園だからこそでしょう。

現在、お茶の容器はペットボトルが主流となり、汽車土瓶はすっかり忘れられた存在です。さらに、鉄道の高速化や交通手段の多様化も進み、旅先で駅弁をじっくり味わう機会も減ってしまいました。そんな時代にあって、この小さな土瓶たちは、かつてののどかな旅の飲食や、弁当屋さんの売り声が響くホームの情景を、今も静かに伝えているように感じます。（岡本泰典）



写真1 岡山城二の丸跡出土の汽車土瓶



写真2 後楽園御舟入跡出土の汽車土瓶



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花尻 1325-3

TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142

WEB <https://www.pref.okayama.jp/site/kodai/>

◎ 交通案内 JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分
JR桃太郎線吉備津駅下車徒歩25分

◎ 業務時間 AM8:30～PM5:15

◎ 休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始

◎ 展示室の開館 AM9:00～PM5:00

土・日・祝日も開館しています。（臨時休館あり）

HP・SNSも随時更新中

Q 古代吉備文化財センター



WEB SITE



Instagram



Facebook

